



「顔の見える関係づくり」

土肥分校1・2年生が地域みなさんと「ロコトレ」で笑顔の交流

6月17日と22日の2日間にわたり、土肥分校の1・2年生が、地域の高齢者のみなさんが集まる運動教室「いちご会」と「さくら会」にお邪魔してきました！

なぜ「ロコトレ」で防災なの？

「ロコトレ」とは、足腰などの筋力を鍛えて寝たきりを防ぐ「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）予防トレーニング」のことです。一見、楽しい健康づくりの交流会ですが、実はこれが分校の「防災」の第一歩です。

土肥分校は全校生徒の半数が土肥に下宿しており、その他の生徒も遠方から通いで登校しています。そのため、もしもの災害のときには自宅に帰れない生徒が出るかもしれません。

そのときに、一緒に避難所で過ごすことになる地域の方々と、普段から一緒に体を動かし、お互いの顔や名前を知っておくこと（顔の見える関係）が、緊急時の大きな安心の土台になります。



ババ抜きに棒渡しゲーム！笑顔がつないだ地域の絆

17日の1年生は、一緒に体を動かしたあと、生徒発案の「ババ抜き」で大盛り上がり！世代を超えたガチンコ勝負に、会場はたくさんの笑い声に包まれました。

22日の2年生は「棒渡しリレー」に挑戦。隣の人へ棒を繋いでいくハラハラ感の中、会場全体がチームになって一致団結しました。

孫・ひ孫と同じ名前！？心温まる素敵な奇跡も

この日、参加者の中にたまたまお孫さんやひ孫さんと「同じ名前」の生徒がおり、「頑張るんだぞ」と温かいエールをいただく一幕もありました。生徒たちは「地域の方からたくさんの元気をいっぱいもらった！」と大喜び。お互いの距離がグッと縮まる時間になりました。



今回は「さくら会」の方々と交流を深めて、自分たちに何ができるのかを改めて考える機会になりました。
地域の方々は緊張していた私たちのことをやさしく温かく見守っていただき、楽しく交流することができました。

1年生 杉本

最初は少し緊張していたけど、温かい笑顔で皆さんが迎えてくれて本当にうれしかったです。短い時間でしたが、トレーニングやレクリエーションを通して、楽しい時間を過ごすことができました。
地域の皆さま、ありがとうございました。

2年生 遠藤

■ 第3回TOIゼミ 土肥の課題発見ワーク

本校体育館にて「第3回 TOIゼミ」が開催しました。今回のテーマは「災害時の土肥地区の課題整理」。次回以降に控えるフィールドワークや防災地図作りに向け、地域の現状を自分事として捉えるための重要なステップです。

■ アイスブレイク「キャットアンドチョコレート」

ウォーミングアップとして、即興思考力を鍛えるカードゲーム「キャット&チョコレート」を実施しました。生徒たちは手持ちのランダムな「アイテムカード」を組み合わせ、日常や災害のピンチを切り抜けるユニークな作戦を即興でプレゼンします。今回のクリア条件は「ジャッジ役の副校長先生に『なるほど!』と言わせること」。「靴下に穴が空いたまま学校に来てしまった!」というお題に対し、使えるアイテムは「ガムテープ」「ラーメン」「新聞紙」「石鹸」でした。体育館は終始、大きな笑い声と拍手に包まれ、グループ内の空気も一気に温まりました。



■ 土肥の課題を考えるグループワーク

「災害時の土肥地区にはどんな課題があるだろう？」をテーマに、付箋へ地域の課題を書き出していきました。

集まった大量の付箋は、生徒たちの手によって【自然・情報・建物・高齢者・物資】などのカテゴリに手際よく分類していきました。その中で、高校生たちのリアルな目線から以下のような鋭い課題が次々と浮かび上がりました。

「建物・道路」の危機：古い建物やブロック塀が多く、道が狭いため避難の妨げになる。

「高齢化・人口」の危機：高齢者が多く若い人が少ない。要介護者もいる中、高齢者の具体的な避難手段が共有されていない。

「孤立」の危機：土肥の地形上、外からの救助が来づらい。また、災害時に下宿生が実家に帰りづらくなるリスクがある。

「つながり」の危機：普段の地域交流や、高校生が地域のイベントに参加する機会が少なく、地域の細かいことや小さい子どものケアについての情報が不足している。



1年生から3年生までが1つのチームに集まる「学年混合グループ」での活動でした。上級生はこれまでの経験を生かして積極的に話し合いをリードし、下級生たちも物怖じせず新鮮な視点から次々と意見を出し、グループの雰囲気大いに盛り上げました!

